

栗東駅周辺まちづくり基本方針

【案・たたき台】

平成26年3月18日

栗東市

目 次

1.はじめに	1
(1) 栗東駅東口公共用地の経緯	1
(2) 元気創造プロジェクト会議設置の目的及び役割	1
2.栗東駅周辺のまちづくりの方向性(にぎわいのあり方)	3
3.まちづくりの目標	4
4.まちづくり施策	5
(1) 交流による「栗東駅ならではの」のにぎわいづくり	5
(2) 便利で快適な居住を支える都心づくり	6
(3) 出歩くのが楽しい魅力あふれる街並みづくり	7
(4) 安心して歩いて暮らせる道づくり	8
(5) わがまち意識が深まる参画と協働のまちづくり	9
5.栗東駅周辺まちづくり推進プロジェクト	11
6.駅東口公共用地の活用方策の考え方と今後の進め方	13
【資料】	
(1) 補助事業等の整理	14
(2) 平成 25 年度 元気創造プロジェクト会議 チーム員 名簿	16

1. はじめに

(1) 栗東駅東口公共用地の経緯

- ・ J R 琵琶湖線栗東駅の開業（平成 3 年）に合わせ計画された駅ビル構想に向け、平成 6 年、栗東都市整備㈱が栗東駅前土地地区画整理事業の保留地（1,358.51 m²）を取得しました。
- ・ その後、市と栗東都市整備㈱との間で、公共施設の設置検討等を検討してきましたが、平成 14 年 3 月、ホテルをメインとした計画推進が財政状況や採算性等から困難であることから、駅ビル構想は凍結され、新幹線新駅の設置も含めた将来ビジョンのなかで再度検討することを目的として、市が同用地を買戻しすることとなりました。
- ・ 平成 23 年、同用地の買戻しを完了しましたが、市はこの買戻しに当たり起債を発行しており、完済は平成 40 年度を予定している状況にあります。
- ・ 一方、平成 19 年の新幹線新駅計画の中止をはじめとする社会経済情勢の変化により、駅東口公共用地の有効活用に向けた必要性は高く、早急な対応が求められています。

(2) 元気創造プロジェクト会議設置の目的及び役割

① 元気創造プロジェクト会議の設置

- ・ 栗東駅東口公共用地の有効活用に向け、平成 25 年 2 月、栗東駅東口公共用地利活用検討会議を開き、まずは市の素案（たたき台）を示すことや、意見交換の基礎となる資料の提示等が求められました。
- ・ 一方、栗東駅周辺地区においては、栗東駅のバリアフリー化や栗東駅前地区の地域活性化など、多種多様な地域課題が存在し、これらが相互に関連し合っていることから、公共用地を単体として検討するのではなく、栗東駅周辺地区をまちづくりとして総合的に検討することとした「栗東駅周辺まちづくりの検討に向けた基本方針」を、平成 25 年 8 月 27 日の総合調整会議にて、機関決定しました。
- ・ これを受け、庁舎横断的な組織により総合的な検討、調整を行うため元気創造プロジェクト会議を設置します。

② 職員の英知を結集

- ・ 栗東駅周辺まちづくりの基本方針（市の素案）を検討するにあたっては、「栗東駅周辺の現状及び既往関連計画等の整理」により、基礎的な情報を共有するとともに、栗東駅周辺まちづくり検討会議での意見等を共有し、検討作業における基礎資料とします。
- ・ そのうえで、元気創造プロジェクト会議は、7 部 23 課におよぶ関係各課から選出したチーム員で構成し、分野ごとの関係課が有する課題や情報、そして専門的な視点から検討することにより、職員の英知を結集することを目指します。

③自由闊達な意見交換・アイデア抽出

- ・元気創造プロジェクト会議では、栗東駅周辺まちづくりを通じて、同地区のポテンシャルを最大限に発揮することを目指し、自由闊達な意見交換やアイデア抽出を促すため、ワークショップ形式の会議スタイルや、ブレインストーミング手法による意見・アイデア抽出を行います。
- ・このため、財政計画や組織体制等を度外視した意見・アイデアが出ることも考えられますが、これらの財政的制約等に関しては、成案化する過程で精査すべきものとして取扱います。

④報告書の位置づけ

- ・本報告書は、元気創造プロジェクト会議における意見交換、アイデア抽出等を中心として整理するものであり、栗東駅周辺まちづくり検討会議等へ提示する市の素案（たたき台）として策定するものです。

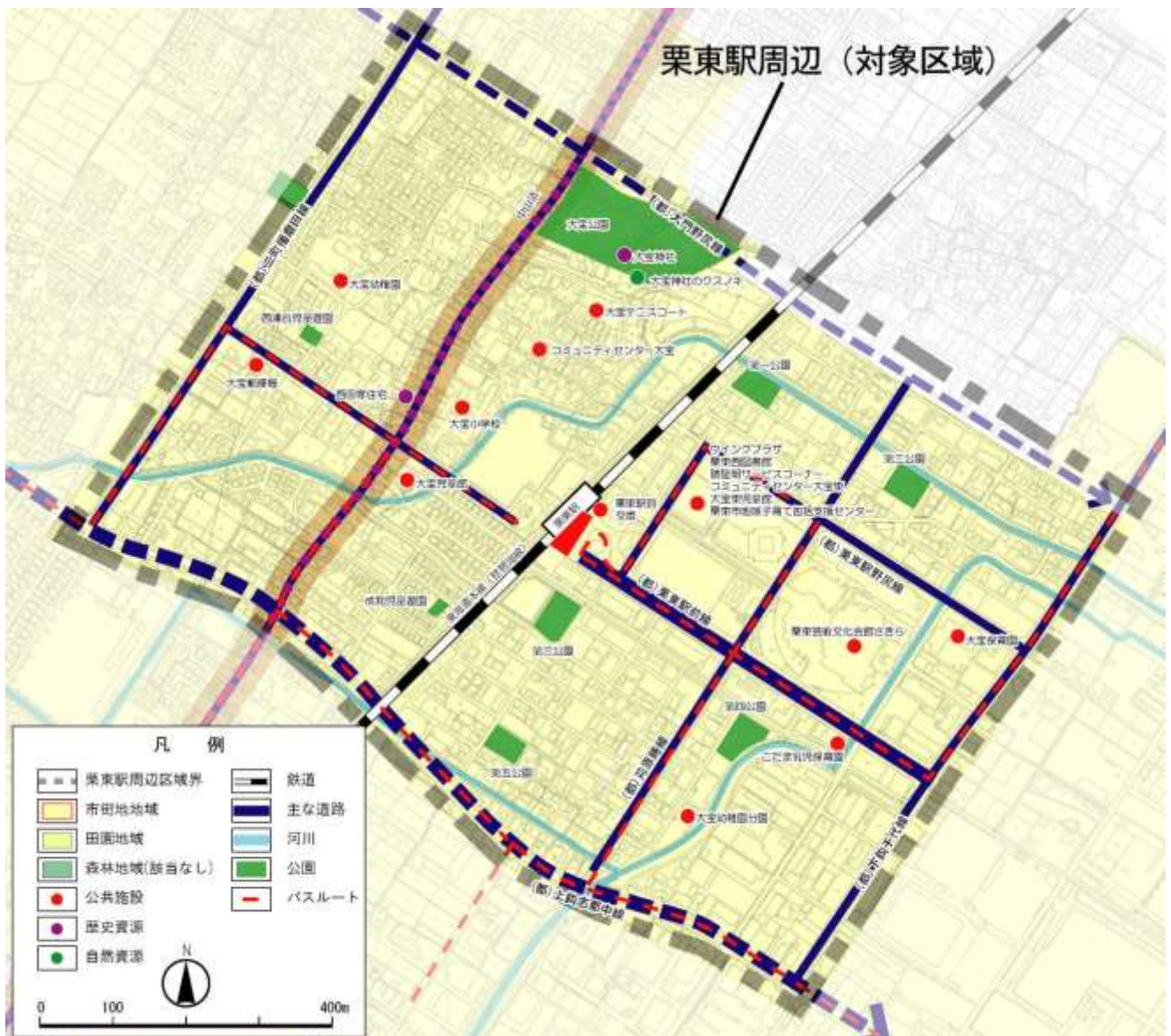


図 栗東駅周辺の現状（施設分布状況）

2. 栗東駅周辺のまちづくりの方向性（にぎわいのあり方）

栗東駅周辺のまちづくりの方向性

栗東駅周辺は、便利さと静けさが調和し、地域住民を中心に市民が買物を楽しみ、人との触れ合いや文化の薫りに感動する場です。

そのにぎわいは、落ち着きのある暮らしやすい居住環境と調和しつつ、たくさんの人が魅力と期待を持って出歩いているにぎわいです。



これまでのまちづくりの成果を活かしながら

“栗東駅周辺ならではの”のまちづくりを進めます

- ・栗東駅周辺は、土地区画整理事業による基盤整備と合わせて、居住環境に大きな影響を及ぼす遊戯施設や工場の立地を制限し、喧騒の要因となる土地利用を制限するなど、便利さと静けさが共存する暮らしやすいまちづくりを進めてきました。
- ・この結果、駅前の交通利便性や都市機能が集積する生活利便性の高さ、閑静な居住環境などが評価され、人口、世帯数ともに大幅に増加しました。
- ・今後は、草津駅前や守山駅前とは一味違う“栗東駅周辺ならではの”の特徴、これまでに築き上げてきたまちづくりの成果を活かしながら、地域住民がより一層、暮らしやすさと豊かさが実感できるまちづくりを進めることが重要です。
- ・暮らしやすさは、日常の買い物などの便利さや子育てのしやすさ、健康、福祉、防災、防犯などの安全安心が確保されることによって実感できるものではないでしょうか。
- ・また、豊かさは、人と人との心を通わせあったり、芸術文化に触れて感動を覚えたり、自分が活躍、貢献できる場と機会が地域社会にあることを確信することからくる充足感とともに実感できるものではないでしょうか。
- ・栗東駅周辺では、地域住民が「栗東駅周辺に住んで良かった、ここには他にない暮らしやすさと豊かさがある」と実感できるまちづくりを進めます。

3. まちづくりの目標

目標 1

交流による「栗東駅ならではの」のにぎわいづくり

子供からお年寄りまで多様な世代が気軽に集い、芸術や文化などを楽しみながら、交流や自己表現ができる場と機会を充実させます。



目標 2

便利で快適な居住を支える都心づくり

栗東駅利用の利便性を高めるとともに、地域住民及び駅利用者の買物や将来的な医療など様々な需要に応える多様な機能が立地しやすい環境をつくります。



目標 3

出歩くのが楽しみな魅力あふれる街並みづくり

地域内の歴史文化資源や芸術文化施設など既存の魅力資源をさらに磨き、相互に繋げるなどにより、文化が薫る美しい散策空間をつくります。



目標 4

安心して歩いて暮らせる道づくり

これからの高齢社会を見据え、誰もが訪れやすく安心・快適にまちなかを散策できる歩いて暮らせるまちをつくります。



目標 5

わがまち意識が深まる参画と協働のまちづくり

既存の公共公益施設の積極的な利活用の促進、施設の長寿命化を図るとともに、維持管理への住民、事業者の積極的な参画を促し、「わがまち」意識や愛着を醸成します。



4. まちづくり施策

(1) 交流による「栗東駅ならではの」のにぎわいづくり

子供からお年寄りまで多様な世代が気軽に集い、芸術や文化などを楽しみながら、交流や自己表現ができる場と機会を充実させます。

まちづくり施策

駅東口公共用地の積極的活用

施策実施の具体的イメージ(アイデア)

- 1 住民・駅利用者・事業者と対話しながら交通広場を含めた駅東口全体の再整備の可能性を検討
- 2 屋台市や夜市、体操会場など様々な交流イベントの場として積極的な活用を促進
- 3 駅東口公共用地への芝生広場、休憩スペース、仮設ステージ等の設置、水道、電気の敷設(仮設店舗用)
- 4 滝を撤去し、市民が育くむ花壇などで彩りを創出

短期

長期

交流による活性化促進

- 5 金勝市場など都市と農村の交流事業の活性化を促進
- 6 市民が気軽に利用できる多目的スペースを設置(空きテナント等を活用)
- 7 女性、高齢者、障がい者等の交流や就労など社会参画の場として活用(空きテナント等を活用)
- 8 気軽に人が集い、滞留する多世代交流拠点を創出(空きテナント等を活用)
- 9 デジタルサイネージを有効活用し、様々な情報を発信(市民等の私的活用を含む)
- 10 ウイングプラザと平和堂の間の歩行空間を交流の場として活用(イベント等の実施、簡易屋根の設置など)
- 11 地域の食と交流を目的とした「食・語らい・交流のスペース」の創出(空きテナント等を活用)
- 12 地域密着型アイドルグループを創出し、交流できるスペースを創出

短期

中期

子育て支援機能の充実

- 13 幼児・児童・生徒等の作品展示スペースを設置(空きテナント等を活用)
- 14 児童館及び子育て支援センターを拠点とした子育て支援機能の継続・充実
- 15 市内の事業所と連携して児童・生徒・学生の職業体験の場を創出(空きテナント等を活用)

短期

施策実施上の課題

交通広場の利用実態調査や駅利用者等の意向把握、関係法令の整理を行う必要があります。

短期	： 10 年以内を想定（ソフト事業及び最優先のハード事業）
中期	： 10 年～20 年以内を想定（今すぐには取り掛かれない事業）
長期	： 長期的対応を想定（可能性を見極めながら将来的に検討する事業）

(2) 便利で快適な居住を支える都心づくり

栗東駅利用の利便性を高めるとともに、地域住民及び駅利用者の買物や将来的な医療など様々な需要に応える多様な機能が立地しやすい環境をつくります。

まちづくり施策

栗東駅前地区
地区計画の検
証

空きテナントの
有効活用促進

施策実施の具体的イメージ(アイデア)

16 栗東駅前地区地区計画の成果と今後の課題の検証(市民・事業者の意向を確認)

17 人が滞留する場(カフェ)などの誘致

18 空きテナントの活用によるチャレンジショップ事業(起業家の育成・支援)

19 市民が気軽に利用できる多目的スペースを設置(空きテナント等を活用)(**6** 再掲)

20 女性、高齢者、障がい者等の交流や就労など社会参画の場として活用(空きテナント等を活用)(**7** 再掲)

21 気軽に人が集い、滞留する多世代交流拠点を創出(空きテナント等を活用)(**8** 再掲)

22 地域の食と交流を目的とした「食・語らい・交流のスペース」の創出(空きテナント等を活用)(**11** 再掲)

23 幼児・児童・生徒等の作品展示スペースを設置(空きテナント等を活用)(**13** 再掲)

24 市内の事業所と連携して児童・生徒・学生の職業体験の場を創出(空きテナント等を活用)(**15** 再掲)

25 ウイングプラザの空きテナントに駅前観光案内所を設置

都心居住を支
える多様な機
能の確保

26 (都)栗東駅前線の幅員構成の見直し、事業者等が利用しやすい空間を創出

27 地域の医療を支える先端医療施設の誘致及び経済的発展に繋がるメディカルツーリズムへの展開

28 青年層を集客する都市機能(サテライトキャンパス等)の誘致

施策実施上の課題

栗東駅前地区地区計画の現行の制限内容とこれまでの成果を市民等と共有した上で意向把握、課題の検証を行う必要があります。

短期	: 10 年以内を想定（ソフト事業及び最優先のハード事業）
中期	: 10 年～20 年以内を想定（今すぐには取り掛かれない事業）
長期	: 長期的対応を想定（可能性を見極めながら将来的に検討する事業）

（３）出歩くのが楽しい魅力あふれる街並みづくり

地域内の歴史文化資源や芸術文化施設など既存の魅力資源をさらに磨き、相互に繋げるなどにより、文化が薫る美しい散策空間をつくります。

まちづくり施策

施策実施の具体的イメージ(アイデア)

歴史文化資源
の維持保全と
有効活用

- 29 大宝神社などの文化財の維持保全と観光交流などへの有効活用
- 30 歴史街道のPR(地域住民の意識啓発)
- 31 中山道における歴史文化が感じられる風情ある街並みの誘導・維持(草津市・守山市と連携)

短期

屋外空間を含
むさくら全体
の積極的活用

- 32 さくらシンボル広場の利活用(野外コンサート・鯉のぼりイベント・若者向けのスポーツ広場・地上絵アート等)
- 33 さきらの池を子どもの水遊びの場に活用
- 34 (都)栗東駅前線及び(都)荻原縦線の交差点に面するさきらの公開空地の有効活用
- 35 さきらの大ホールの改装による収容人数増加

短期

中期

長期

回遊動線の景
観づくり

- 36 公共施設及び賛同する市民や事業者が連携して環境配慮型のイルミネーションなどを実施し回遊動線を創出
- 37 栗東駅周辺の様々な場所でアートを創出(さきらの興行のリハーサルなど)
- 38 さくら外周のウォーキングコース設置(距離と消費カロリーを表示)
- 39 地域の文化資源(森田漫画や競走馬など)に因んだオブジェなどを街かどに設置、ブロックタイルやプレートを歩道に埋め込む
- 40 緑化の充実、広告物の形態・意匠の統一、無電柱化、街路樹等の見直し、道路後退用地の有効活用

短期

中期

長期

施策実施上
の課題

鯉のぼりイベントのような年度当初の事業に、教育機関の協力を求める場合は、あらかじめ各教育機関との調整を行う必要があります。

短期	：10年以内を想定（ソフト事業及び最優先のハード事業）
中期	：10年～20年以内を想定（今すぐには取り掛かれない事業）
長期	：長期的対応を想定（可能性を見極めながら将来的に検討する事業）

（４）安心して歩いて暮らせる道づくり

これからの高齢社会を見据え、誰もが訪れやすく安心・快適にまちなかを散策できる歩いて暮らせるまちをつくりまします。

まちづくり施策	施策実施の具体的イメージ(アイデア)	
栗東駅のバリアフリー化、利便性の向上	41 栗東駅構内及び栗東駅西口へエレベーターを設置	短期
	42 栗東駅への新快速の停車実現	中期
栗東駅周辺へのアクセス性の向上	43 コミュニティバスの利便性向上（駅周辺商業者との連携による割引・特典の実施など利用促進策の検討）	短期
	44 駐車場における「車いす区画」、「思いやり区画」の整備（高齢者、障がい者、妊婦等の利便性確保）	短期
	45 （都）栗東駅前線の路側帯、せせらぎスペースを活用した無料駐車スペースの整備	中期
	46 電気自動車の充電スポットを設置	中期
	47 さくら利用者の駐車場無料化も含めたあり方の検討	長期
安全で快適な人にやさしい道づくり	48 （都）大門野尻線の早期整備	短期
	49 自転車専用レーンの整備や歩道のバリアフリー化、点字ブロックの敷設	短期
	50 草津市・守山市との連携による中山道の自動車の通行制限	中期
	51 栗東駅東西地下通路の拡幅（駅東西の一体性向上、地域活性化）	長期

施策実施上の課題

栗東駅西口へエレベーターを設置する際には、駅舎の床面積が増加することに伴う各種法令への対応措置などを確認する必要があります。

- 短期**：10年以内を想定（ソフト事業及び最優先のハード事業）
中期：10年～20年以内を想定（今すぐには取り掛かれない事業）
長期：長期的対応を想定（可能性を見極めながら将来的に検討する事業）

(5) わがまち意識が深まる参画と協働のまちづくり

既存の公共公益施設の積極的な利活用の促進、施設の長寿命化を図るとともに、維持管理への住民、事業者の積極的な参画を促し、「わがまち」意識や愛着を醸成します。

まちづくり施策

施策実施の具体的イメージ(アイデア)

公共施設の活用と愛着を育む制度の導入

- 52** 既存の整備済み公園の特徴などを住民に周知し、利用を促進
- 53** 住民等の参画による公園の維持管理制度の導入
- 54** ベンチや花壇等公共空間のアダプト制度の導入
- 55** 公共施設へのネーミングライツ(命名権)制度の導入
- 56** 市道の愛称公募やりっとう美知メセナなど愛着を育む施策の実施
- 57** 魚や鳥など生き物が生息する中ノ井川の良好な水辺景観を住民参画で保全、向上

短期

既存の公共施設の運営等の適正化

- 58** 利用者のニーズなど実態を踏まえた公共施設のあり方の見直し
- 59** 計画的な修繕・改修、再生可能エネルギー・省エネ機器の導入などによる公共施設の維持コストの圧縮、長寿命化

短期

中期

まちづくりに参画しやすい機会・環境づくり

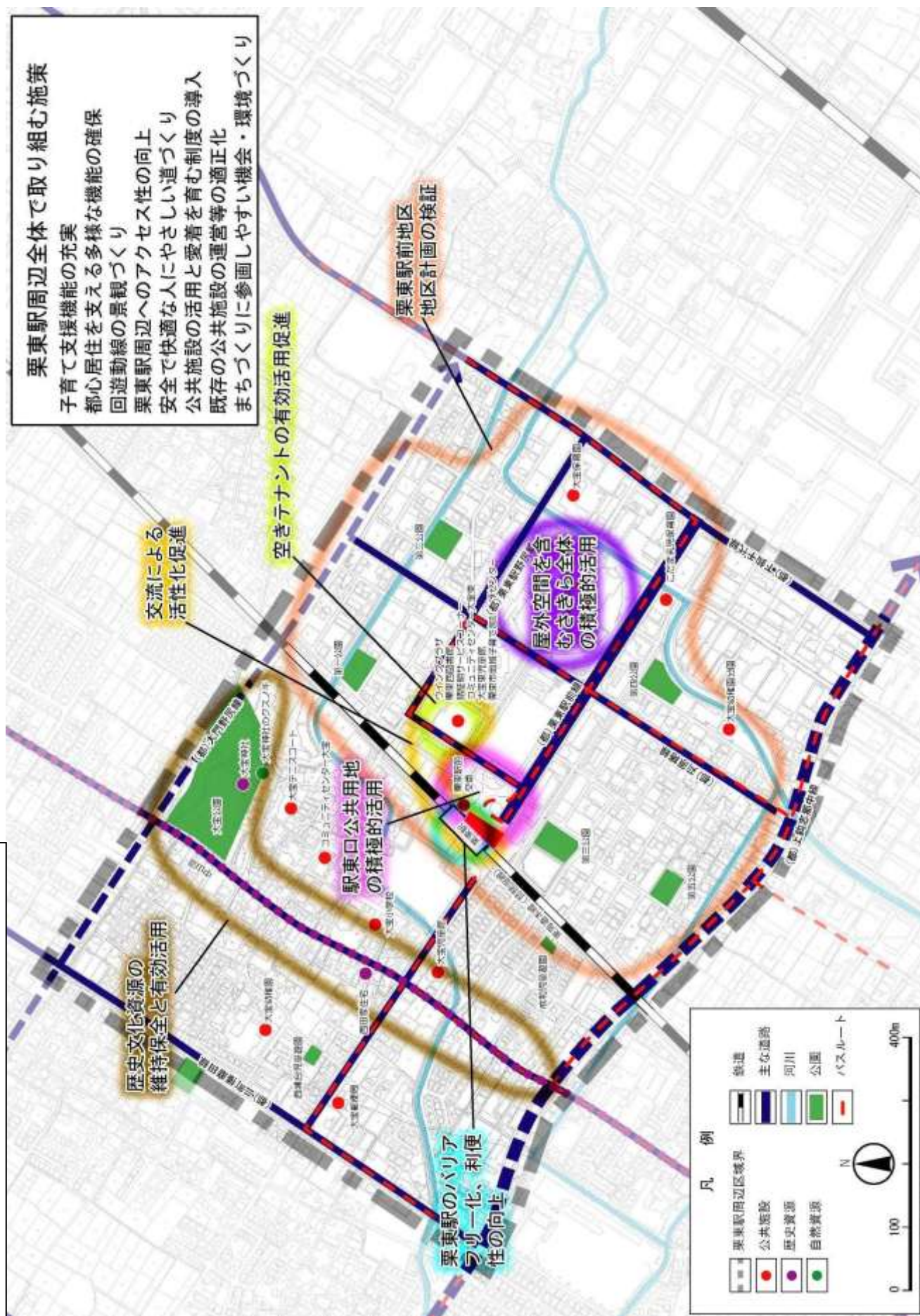
- 60** 地域のまちづくりに功労のあった人材の顕彰等を通じたまちづくり意識の啓発
- 61** 栗東駅周辺のまちづくりを担う各種団体等が参画する協議会の設立

短期

施策実施上の課題

現在、公園の管理は市または自治会となっており、公園の維持管理への住民等の参画制度を検討する際には、管理者との調整が必要です。

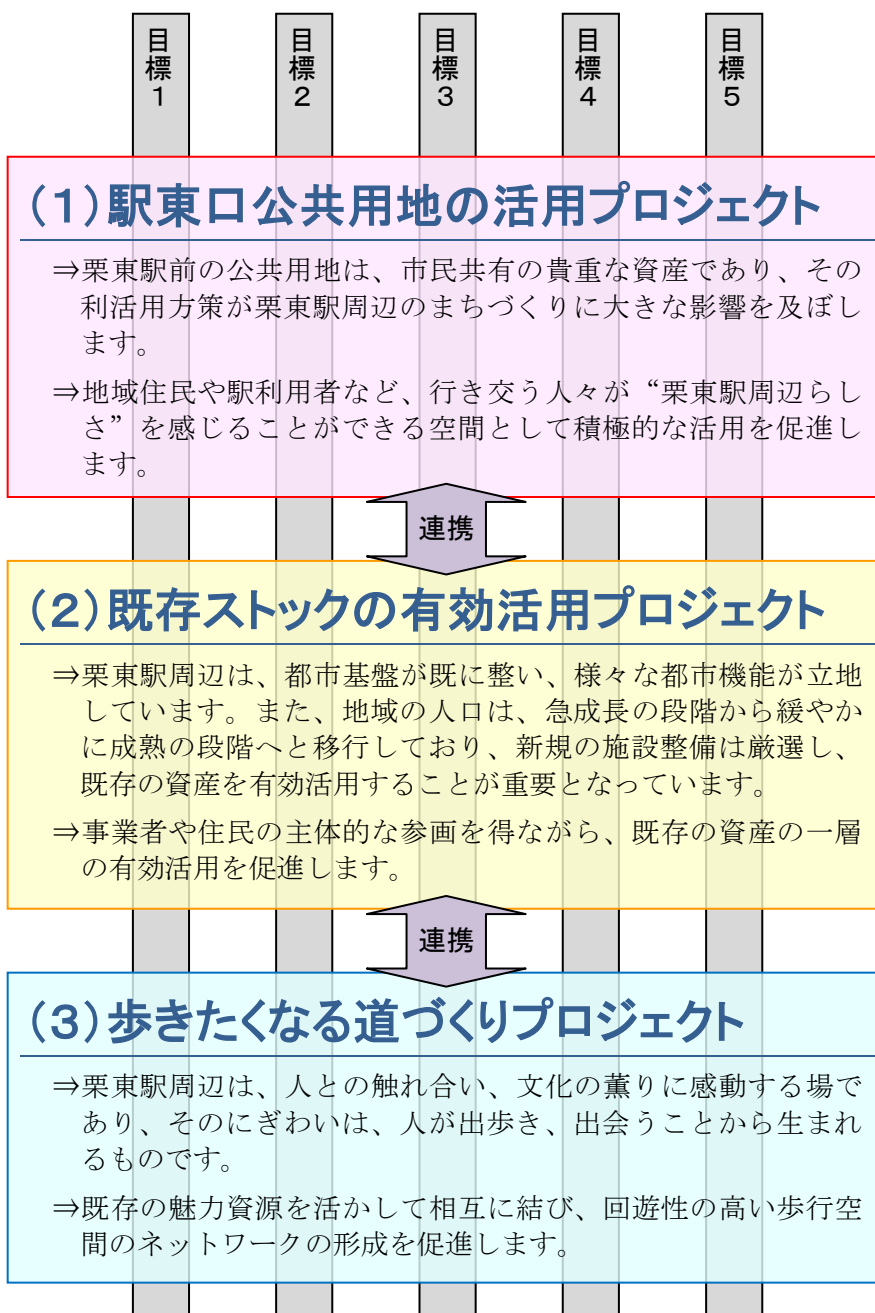
栗東駅周辺まちづくり施策展開図



5. 栗東駅周辺まちづくり推進プロジェクト

- まちづくりの方向性(にぎわいのあり方)、まちづくりの目標の実現に向け、分野横断的に施策を展開します。ここでは、相互に関連があり、連携・協調して実施することにより効果が高まる施策の具体的アイデアを3つのまちづくり推進プロジェクトとして集約して掲載し、栗東駅周辺において展開される今後のまちづくりのイメージを提示します。

栗東駅周辺まちづくり推進プロジェクト（分野横断的に連携・協調して関連施策を実施）



栗東駅周辺まちづくり推進プロジェクト

●まちづくりの方向性(にぎわいのあり方)、まちづくりの目標の実現に向け、分野横断的に施策を展開します。ここでは、相互に関連があり、連携・協調して実施することにより効果が高まる施策の具体的アイデアを3つのまちづくり推進プロジェクトとして集約して掲載し、栗東駅周辺において展開される今後のまちづくりのイメージを提示します。

※実際に各推進プロジェクトを実施する際には、地域住民、事業者、栗東駅利用者等の意向把握を行い、結果を踏まえて内容を見直し、協働で推進します。

(1) 駅東口公共用地の活用プロジェクト

栗東駅東口公共用地は、市民共有の貴重な資産であり、その利活用方策が栗東駅周辺のまちづくりに大きな影響を及ぼします。

これまでの栗東駅周辺のまちづくりの経緯や成果、地域住民、事業者、駅利用者の意向を踏まえながら、栗東駅東口公共用地の利活用を積極的に促進し、市民等の交流によるにぎわいを創出します。

また、中長期的な施策として駅東口の交通広場（2つのロータリー等）と合わせた一体的な再編の可能性を探求するなど、様々な観点から総合的に検討します。

関連する施策実施の具体的イメージ(アイデア)

1	住民・駅利用者・事業者と対話しながら交通広場を含めた駅東口全体の再整備の可能性を検討	短
2	屋台市や夜市、体操会場など様々な交流イベントの場として積極的な活用を促進	短
3	駅東口公共用地への芝生広場、休憩スペース、仮設ステージ等の設置、水道、電気の敷設(仮設店舗用)	短
5	金勝市場など都市と農村の交流事業の活性化を促進	短
9	デジタルサイネージを有効活用し、様々な情報を発信(市民等の私的活用を含む)	短
37	栗東駅周辺の様々な場所でアートスペースを創出(さきらの興行のリハーサルなど)	短
41	栗東駅構内及び栗東駅西口へエレベーターを設置	短
43	コミュニティバスの利便性向上(駅周辺事業者との連携による割引・特典の実施など利用促進策の検討)	短
54	ベンチや花壇等公共空間のアダプト制度の導入	短
61	栗東駅周辺のまちづくりを担う各種団体等が参画する協議会の設立	短

市民、事業者等が主体となった様々なイベント等の交流事業の実施やプランター等による花と緑の景観創出、栗東駅のバリアフリー化など利便性の向上に取り組み、栗東駅前に賑わいと彩りを創出します。

12	地域密着型アイドルグループを創出し、交流できるスペースを創出	中
42	栗東駅への新快速の停車実現	中
46	電気自動車の充電スポットを設置	中
4	滝を撤去し、市民が育くむ花壇などで彩りを創出	長
51	栗東駅東西地下通路の拡幅(駅東西の一体性向上、地域活性化)	長

中長期的には、短期的な取り組みの成果や東口全体の再整備の可能性を踏まえ、栗東市の玄関口として快適性や利便性をさらに高める施策を実施します。

(2) 既存ストックの有効活用プロジェクト

栗東駅周辺は、栗東駅開業に合わせてまちづくりを進めてきた駅東側を中心に、多様な都市機能、施設が立地しています。

これらの施設の中には、相互の連携により、一層の有効活用が期待されるものがあります。

栗東駅周辺における特徴的な機能である芸術文化拠点(さきら)や他の施設の連携を図り、栗東駅周辺に人の流れを創出します。

関連する施策実施の具体的イメージ(アイデア)

6	市民が気軽に利用できる多目的スペースを設置(空きテナント等を活用)	短
7	女性、高齢者、障がい者等の交流や就労など社会参画の場として活用(空きテナント等を活用)	短
8	気軽に人が集い、滞留する多世代交流拠点を創出(空きテナント等を活用)	短
10	ウイングプラザと平和堂の間の歩行空間を交流の場として活用(イベント等の実施、簡易屋根の設置など)	短
11	地域の食と交流を目的とした「食・語り・交流のスペース」の創出(空きテナント等を活用)	短
13	幼児・児童・生徒等の作品展示スペースを設置(空きテナント等を活用)	短
14	児童館及び子育て支援センターを拠点とした子育て支援機能の継続・充実	短
15	市内の事業所と連携して児童・生徒・学生の職業体験の場を創出(空きテナント等を活用)	短
18	空きテナントの活用によるチャレンジショップ事業(起業家の育成・支援)	短
32	さきらシンボル広場の利活用(野外コンサート・鯉のぼりイベント・若者向けのスポーツ広場・地上絵アート等)	短
33	さきらの池を子どもの水遊びの場に活用	短
61	栗東駅周辺のまちづくりを担う各種団体等が参画する協議会の設立	短

空きテナントを活用して市民が気軽に集える空間を創出するとともに、ウイングプラザと平和堂の間の歩行空間やさきらのシンボル広場等と駅東口公共用地の連携による面的なイベントの実施を促進するなど、人の流れをつくり出します。

34	(都)栗東駅前線及び(都)荏原線との交差点に面するさきらの公開空地の有効活用	中
26	(都)栗東駅前線の幅員構成の見直し、事業者等が利用しやすい空間を創出	長
35	さきらの大ホールの改装による収容人数増加	長

中長期的には、短期的な取り組みの成果を踏まえながら、ハード事業の実施による既存の公共施設の一層の有効活用に取り組みます。

(3) 歩きたくなる道づくりプロジェクト

栗東駅周辺には、駅東側を中心に立地する各種の都市機能だけでなく、駅西側を中心に中山道、大宝神社などの歴史文化資源や中ノ井川の水辺など潤いや風情を感じる地域資源が多様に存在しています。

これらの既存の多様な地域資源を活かし、市民や事業者と協働で散策ルートの形成や歩行空間の充実など、歩くことが楽しい市街地環境を形成することにより、まちを散策する人を増やし、様々な出会いの機会を創出します。

関連する施策実施の具体的イメージ(アイデア)

29	大宝神社などの文化財の維持保全と観光交流などへの有効活用	短
30	歴史街道のPR(地域住民の意識啓発)	短
31	中山道における歴史文化が感じられる風情ある街並みの誘導・維持(草津市・守山市と連携)	短
36	公共施設及び賛同する市民や事業者が連携して環境配慮型のイルミネーションなどを実施し回遊動線を創出	短
37	栗東駅周辺の様々な場所でアートスペースを創出(さきらの興行のリハーサルなど)	短
38	さきら外周のウォーキングコース設置(距離と消費カロリーを表示)	短
49	自転車専用レーンの整備や歩道のバリアフリー化、点字ブロックの敷設	短
54	ベンチや花壇等公共空間のアダプト制度の導入	短
56	市道の愛称公募やりっとう美知メセンなど愛着を育む施策の実施	短
57	魚や鳥など生き物が生息する中ノ井川の良好な水辺景観を住民参画で保全、向上	短
61	栗東駅周辺のまちづくりを担う各種団体等が参画する協議会の設立	短

中山道、大宝神社、中ノ井川など既存の地域資源や公共施設などを活用して創出するアートスペースを結ぶ散策ルートづくり、市民等と協働によるイルミネーションの実施など栗東駅東西の魅力、資源を結び歩きたくなる環境をつくります。

39	地域の文化資源(森田漫画や競走馬など)に因んだオブジェなどを街かどに設置、ブロックタイルやプレートを歩道に埋め込む	中
50	草津市・守山市との連携による中山道の自動車の通行制限	中
40	緑化の充実、広告物の形態・意匠の統一、無電柱化、街路樹等の見直し、道路後退用地の有効活用	長
51	栗東駅東西地下通路の拡幅(駅東西の一体性向上、地域活性化)	長

中長期的には、短期的な取り組みの成果を踏まえながら、ハード事業の実施による既存の公共施設の一層の有効活用に取り組みます。

6. 駅東口公共用地の活用に向けての今後の進め方

栗東駅東口公共用地の利活用の検討にあたっては、駅東口公共用地だけの利活用を図るだけでなく、駅周辺の課題を踏まえた中で利活用策の検討が必要であるとの結論に至りました。

そこで、駅前のまちづくりを考える上でのテーマであるにぎわいを創出していく上で、栗東駅周辺における施策の具体的アイデアを3つのまちづくり推進プロジェクトとして集約しました。

以下、このまちづくり推進プロジェクトの具現化に向けた今後の進め方を提示します。

(1)「栗東駅東口公共用地の活用プロジェクト」の推進にあたって

「施策実施の具体的イメージ（アイデア）」として、短期に実施する10項目、中期に実施する3項目、長期に実施する2項目の計15項目を抽出しました。

今後、まずは短期に実施するとして抽出をした項目を中心に、「栗東駅周辺まちづくり検討会議」、「市民アンケート」等の結果も踏まえる中で、取り組み項目を精査し、駅東口公共用地の利活用に向け、具体化を図ります。

また、将来的には、財政状況、地域のニーズ等を勘案しつつ、必要に応じて、駅前広場の滝や駅前ロータリーも含めた東口全体の一体的な再整備の可能性についても検討することとします。

(2)「既存ストックの有効活用プロジェクト」の推進にあたって

「施策実施の具体的イメージ（アイデア）」として、短期に実施する12項目、中期に実施する1項目、長期に実施する2項目の計15項目を抽出しました。

既存のストックとしては、ウイングプラザ、平和堂、さきや周辺の商業施設などの有効活用が焦点となることから、地域のニーズ等を踏まえる中で、当基本方針における内容を各事業主管課において各種計画等に反映し、施策に結びつけるべく引き続き検討を重ねていきます。

(3)「歩きたくなる道づくりプロジェクト」の推進にあたって

「施策実施の具体的イメージ（アイデア）」として、短期に実施する11項目、中期に実施する2項目、長期に実施する2項目の計15項目を抽出しました。

にぎわいの原点である歩きたくなる道づくりを行う上では、道路などのハード整備も必要となりますが、まずは、短期に実施する項目として掲げる内容について、地域ニーズ等を踏まえる中で、当基本方針における内容を各事業主管課において各種計画等に反映し、施策に結びつけるべく引き続き検討を重ねていきます。

(4)その他

これらのプロジェクトの実施にあたっては、それぞれのプロジェクトが有機的に連携し、取り組みを進めることにより、その相乗効果で高い成果を生むものと考えます。

また、まちの活力を高める上では、地域住民、事業者、駅利用者の意向を反映することはもとより、実施施策の検討、決定のプロセスへの市民の参画や施策の実施段階での市民の皆さんの取り組みが必要不可欠であり、行政、市民、事業者が、それぞれの役割を担い、力を発揮することが望まれることから、常に対話を基本として本プロジェクトを推進していくものとします。

【資料】

(1)補助事業等の整理

- ・ここでは、現時点で活用が想定される代表的な補助事業を例示します。事業実施の際には、以下の補助事業を中心に、事業内容に沿った国、県等の支援メニューを積極的に活用します。

事業メニュー	必須の上位計画	内容	補助率など
社会資本総合整備交付金事業	・社会資本総合整備計画	○基幹事業 (都市再生整備計画事業) ○関連事業 (関連社会資本整備事業+効果促進事業)	・国費率：40% (認定中心市街地活性化基本計画区域は45%)
暮らし・にぎわい再生事業	・中心市街地活性化基本計画（要認定）	○コア事業 ①都市機能まちなか立地支援 ②空きビル再生支援 ③賑わい空間施設整備（多目的広場整備） ○付帯事業 ①計画コーディネート支援 ②関連空間整備	・国費率：1/3
中心市街地活性化事業（中心市街地再興戦略事業）		○先導的、実証的事业 (施設整備事業) ○調査事業 (ニーズ調査、マーケティング調査等) ※平成25年度補正予算での対応に限り、調査事業は中心市街地活性化基本計画の認定の必要がない	・国費率：2/3 ・補助対象：民間事業者、まちづくり会社等
民間まちづくり活動促進事業	以下のいずれか ・中心市街地活性化基本計画（要認定） ・景観計画 ・歴史的風致維持向上計画（要認定） ・観光圏整備実施計画（要認定） ・再開発方針 ・地区計画	○普及啓発事業 ・都市の課題解決に向け関係者を対象としたワークショップを開催するなど、継続的な活動を実践する人材育成の仕組みの構築 ○社会実験・実証事業等 ①協定に基づく広場の整備や通路舗装の高質化、公共空間を活用したイベントの実施等 ②にぎわい・交流の場の創出や都市施設の活用等に資する社会実験等	・国費率：定額補助 ・補助対象：地方公共団体、大学、中心市街地活性化協議会、景観協議会、民間事業者等（JV含む） ① ・国費率：1/2 (かつ、地方公共団体負担額以内) ・補助対象：都市再生整備推進法人 ② ・国費率：1/2 【直接補助】1/2 【間接補助】1/3 (かつ、地方公共団体負担額以内) ・補助対象： 【直接補助】中心市街地活性化協議会、景観協議会等 【間接補助】民間事業者等
都市環境維持・改善事業資金貸付制度	・低炭素まちづくり計画	○都市再生整備推進法人や街づくり法人が自立・持続的なエリアマネジメント活動を目的として実施する収益事業や区御経施設整備事業に貸付	・貸付限度額：事業費の1/2 ・国の貸付率：地方公共団体の貸付額の1/2（事業費の1/4） ・利率：無利子 ・償還期間：10年以内

事業メニュー	必須の上位計画	内容	補助率など
地域商業自立促進事業		<p>○調査分析事業</p> <p>①地域商業自立促進調査分析事業</p> <p>・商店街等において地域コミュニティの形成に向けた事業(②、③)に継続的に取り組むために必要な調査・分析事業</p> <p>○支援事業</p> <p>②地域コミュニティ形成促進支援事業</p> <p>・コミュニティカフェの整備、運動教室・手芸教室の場の整備等</p> <p>③商店街等新陳代謝促進支援事業</p> <p>・チャレンジショップの整備等</p> <p>④魅力創造支援事業</p> <p>・アンテナショップ整備、集客イベント実施等</p>	<p>①～③</p> <p>・国費率：2/3</p> <p>①は100万円～500万円</p> <p>②、③は100万円～5億円</p> <p>・補助対象：商店街組織、民間事業者等</p> <p>④</p> <p>・国費率：2/3</p> <p>100万円～2億円</p> <p>・補助対象：商店街組織、民間事業者等</p>

(2)平成 25 年度 栗東市元気創造プロジェクト会議 チーム員 名簿

所 属 名		氏 名
政策推進部	元 気 創 造 政 策 課	松 井 智
	財 政 課	田 代 正 幸
		山 田 秀 樹
総務部	公 社 健 全 化 対 策 課	太 田 公 浩
市民部	総 合 窓 口 課	内 田 久 美
	自 治 振 興 課	原 和 宏
	生 活 安 全 課	太 田 和 宏
	交 通 担 当	武 田 聡 一 郎
健康福祉部	社 会 ・ 障 が い 福 祉 課	日 野 亮 子
	子 育 て 応 援 課	松 本 正 人
	幼 児 課	太 田 聡 史
環境経済部	農 林 課	太 田 雅 美
	環 境 政 策 課	駒 井 正 史
	商 工 観 光 労 政 課	木 村 吉 信
建設部	道 路 ・ 河 川 課	大 角 雅 人
	土 木 管 理 課	永 福 義 則
	都 市 計 画 課	村 瀬 信 幸
	地 域 ま ち づ くり 課	鈴 木 孝 宏
教育部	教 育 総 務 課	福 田 茂 幸
	学 校 教 育 課	田 中 覚
	生 涯 学 習 課	小 林 政 仁
	文 化 体 育 振 興 課	片 岡 豊 裕
公募	歴 史 民 俗 博 物 館	中 川 敦 之
	企 業 誘 致 ・ 経 済 振 興 課	桂 靖 典
	総 務 課	井 沢 多 郎
合 計		25 名
事務局	政 策 推 進 部 長	内 記 一 彦
	元 気 創 造 政 策 課	西 村 勝
	元 気 創 造 政 策 課	佐 藤 哲 也
	元 気 創 造 政 策 課	竹 山 和 弘
	元 気 創 造 政 策 課	元 持 雄 二